

- ② 小・中学校の給食費が無償に
- ③ 厚木の魅力を動画でPR
- ④-⑤ 特集 子育てしやすいまちに
交流・相談・支援の場
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 | アプリは「マチイロ」 ネットは「マイ広報紙」



鈴木聖奈さん 新

白貝真理子さん

石井留美さん

萩原百香さん

石井庸江さん

渡嘉敷愛奈さん

川代幸子さん 新

北村純一さん 新

星野咲子さん

森田恵子さん

大坪政文さん

齊藤和美さん 新

斉藤聖子さん

清水ゆかりさん

末次由樹さん

赤川すみれさん 新

高橋新吾さん

高井智子さん

梶原勇城さん

西田由花里さん 新

紺野綾乃さん 新

木内靖さん

長澤由美子さん

柏木康男さん 新

室田陽子さん

熊野康子さん

近藤琳音さん 新

早川くるみさん

常盤真樹子さん

堀口春奈さん

映像で最新の話題をお届け

あつぎ愛テレビ

テレビやインターネットで見られる情報番組「あつぎ愛テレビ」で厚木の魅力や市のお知らせなどを発信しています。

《視聴方法》

■市公式YouTube

最新の番組や過去に放送した内容も公開

■厚木伊勢原ケーブルネットワーク

11チャンネル(契約が必要)

①12時～②19時30分～③22時45分～(各回15分)

●新任リポーターを紹介

今後の意気込みなどを動画で紹介しています。

愛TV/4/1～



視聴はこちら

☎25-2040

📍広報シティプロモーション課

「厚木の魅力や最新情報、私たちがお届けします」。市民リポーターは1999年に始まり、市の広報番組(左欄参照)で、イベント情報や市の取り組みなどを皆さんに紹介しています。公募・オーディションを経て、2年間活動する30人のメンバーが決まりました。

リポーターの年代は18歳から85歳まで幅広く、経歴もさまざまです。番組でのリポートに加え、イベントや式典の司会、写真・動画撮影、広報紙のモデルなどで、市の広報活動をサポートしています。厚木にはたくさんの魅力があります。

リポーターの皆さんが生き生きと届けてくれる情報には、住んでいるまちのこともっと好きになるきっかけが詰まっています。

Zoom Up

4月1日からスタート

小・中学校の給食費が無償に

学校給食は、子どもたちの健やかな成長に欠かせないものです。4月から保護者の経済的負担を減らすため、市立小・中学校の給食費を無償化し、特別支援学校や私立などの学校に通う子どもがいる家庭には、相当額を給付。社会全体で子どもたちの食の環境を支えていきます。

学校給食は、栄養バランスの良い食事を取ることや望ましい食習慣を身に付けるなど、子どもの成長に大切な役割を担っています。給食の食材費はこれまで、保護者が負担してきました。しかし、物価高騰により、子育て世帯の経済的な負担が増している状況を踏まえ、無償化に向けて検討を進め、アンケートやパブリックコメントなどを

実施。多くの方の賛同を得て、4月からのスタートが決まりました。

経済的な負担を軽減

無償化の対象は、市立小・中学校に

通う児童・生徒約1万6千人です。手続きなしで、4月分から給食費が無償になります。市立中学校に子どもが通う室田陽子さん(53・戸室)は「物価が上がっているので、給食費がからなくなるのはありがたい。息子は食べ盛りで、給食をいつも楽しみにしている」と話します。

無償化と併せ、食物アレルギーなどの事情で給食を停止している児童・生徒や、特別支援学校・私立学校に通う子どもがいる家庭への給付も始めます。給付の対象となる方には、市から案内を郵送。手続きをすると、市立学校の給食費相当額が給付されます(左欄参

安心でおいしい給食を

市内では、校内や北部・南部学校給食センターで栄養バランスの良い給食が作られています。あつき産米などの地場農畜産物を取り入れた「パクパクあつき産産物」を設け、子どもたちが地元で採れたものを食べる機会を作り、給食を通じた食育にも力を入れています。これからは子どもたちの成長を支えるため、安心して食べられるおいしい給食を提供していきます。

☎学校給食課 ☎25-2683



月に1回、市内で収穫された「あつき産米」を提供

事業の概要

■学校給食費の無償化

〈対象〉市立小・中学校に通学する児童・生徒
☑不要。

■市の学校給食費相当額の給付

〈対象〉市立小・中学校に通学し、食物アレルギーなどの事情により給食を停止している、または市内在住で特別支援学校や私立小・中学校に通学する子どもの保護者

☑12~1月頃、対象者に案内を送付。同封の申請書を学校給食課へ。

詳細はこちら▶



☎学校給食課 ☎225-2683



助成で気軽に外出を

シルバーチケット・タクシー券を交付

宿泊・入浴施設などの料金を助成するチケットやタクシーの利用券を交付します。

■シルバーチケット(保養施設等利用助成券)

〈対象〉市内在住で2024年度に65歳以上になる方
☑福祉総合支援課や公民館(厚木北を除く)へ。

■高齢者タクシー利用券

〈対象〉4月1日現在市内在住で①24年度に85歳以上になる②24年度に70~84歳で自動車運転免許を持っていない③介護度が要介護4・5のいずれかに該当する方

※かなちゃん手形購入費・福祉タクシー利用費・身体障害者等ガソリン購入費助成との重複受給は不可。特別養護老人ホームに入所中の方は対象外

〈助成内容〉1枚400円の利用券を48枚交付

☑要介護4・5の方は介護保険証、代理申請は身分証明書を持ち、福祉総合支援課へ。詳細は市HPに掲載。

いずれも交付期間は4月1日~2025年3月31日。

☎福祉総合支援課 ☎225-2220



市HPはこちら

バスの利用で交通混雑を緩和

サイクルアンドバスライドが新たにオープン

バス停の近くに自転車を止められる「サイクルアンドバスライド」を1カ所新設しました。

《サイクルアンドバスライドとは》

自宅からバス停留所まで自転車を使い、停留所から目的地まで路線バスを利用することです。交通混雑の緩和やバスの利便性の向上などにつなげます。



〈新設場所〉 依知神社敷地内

〈駐車可能台数〉 18台

〈供用開始日〉 4月1日~

☑不要。



詳細はこちら

☎くらし交通安全課 ☎225-2760



市内設置場所(11カ所)

- ・妻田薬師上りバス停
- ・鳶尾団地バス折り返し場
- ・藤塚上りバス停
- ・依知小学校前下りバス停
- ・妻田上りバス停
- ・松蓮寺下りバス停
- ・若宮橋上りバス停
- ・山際バス停(上り・下り)
- ・屋際下りバス停
- ・金田神社前下りバス停
- ・相川中学校前下りバス停



施設や制度を利用する保護者の声や子どもたちを映した



ドローンで空から捉えた躍動感のある映像で魅力を伝える

Q Zoom Up

効果的な情報発信を 厚木の魅力を動画でPR

市内外に市の魅力や施策をPRする動画を作成しました。動画はSNSや公共交通機関の広告で展開。市公式YouTubeや駅前デジタルサイネージなどでも公開し、広く効果的な情報発信をしています。

広告などの媒体で広く発信

少子高齢化や人口減少が進む中、「住んでみたい・住み続けたい」と思ってもらうためには、市内外に向けたまちの魅力発信が大切です。市では「選ばれるまち」を目指し、市の事業や魅力を伝える動画を新たに作成。定住促進や集客などにつなげていきます。

今回作成したのは、「子育て環境」「自然・イベント」「学校給食」を取り上げた動画です。安心して子育てができるサービスマンや、山・川などの豊かな自然やにぎわうまちの姿を紹介しました。二つの動画は、多くの方の目に留まるよう、初めてSNS・公共交通機関の広告に展開。2月にインスタグラムや小田急・相鉄線の車内モニターに放映しました。SNS広告では、1カ月で70万回ほど再生されました。

さらに、4月から始まる小・中学校の給食費の無償化をPRする動画も3月に完成。いずれの動画も市公式YouTubeや本厚木駅前などのデジタルサイネージ、庁舎内モニターなどで公開し、広く効果的な発信に取り組んでいます。

魅力発信事業の概要

●PR動画の作成

市の施策や魅力をPRする動画をドローンなどを活用し作成。

●広告事業

インスタグラムや公共交通機関で作成した動画を使い、市の魅力を伝える広告を展開。

●市ホームページの拡充

トップページの見直しや、子育て・イベント・SDGsの特設サイトを開設。



PR動画はこちら

みんなで市の魅力を発信 #niceatsugi

インスタグラムやX（旧ツイッター）などのSNSで「#niceatsugi」と検索すると、利用者が投稿した市内の情報が見られます。



市公式
インスタ
グラム



市公式
エックス

市では、昨年12月にホームページ、1月に公式LINEをリニューアルするなど情報の発信に力を入れています。他にも、厚木の魅力をSNSで共有できるハッシュタグ「#niceatsugi」は、誰でも気軽に発信できるツールです。皆さんも、まちの旬な話題やきれいな風景など厚木の良さを発信し、「住みたい・訪れたい」と思ってもらえるきっかけを、一緒につくっていきませんか。

☎ 広報シティプロモーション課 ☎ 225-2040

皆さんが思うまちの魅力を

本厚木駅前東口地下道 活性化提案事業

活気あふれる空間になるよう市民の皆さんがイベントを実施します。

☎ 企画政策課 ☎ 225-2450



詳細はこちら



事業名	内容	日にち
地下マルシェ	地場産野菜や加工品、地ビール、ハンドメイド作品などの販売	4月27日、10月27日
キャンドルワークショップ	ろうそくの再利用方法の展示と販売	6～12月の第1日曜(8月を除く)
出張まりぞうランド	ラジコンなどに触れる	第2日曜
本厚木地下道骨董市	骨董品の販売など	8・1月を除く3日
なかちょう地下道フェスティバル	ワークショップやロボット操縦体験	第1・4日曜(8月第1週を除く)
AI姿勢診断&カイロプラクティック体験	AIによる姿勢診断と骨盤調整	6・8・10・12・1月の第2日曜、7・9・11・2・3月の3日
こんなスポーツ知っトク!	生涯スポーツの普及や健康増進を目指す	6月15日

4月1日運用開始

日勤救急隊を 創設



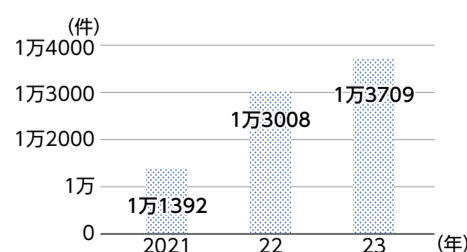
高齢化などで増加する救急要請に対応するため、日勤救急隊を新たに設け、救急体制を強化しました。☎ 救急救命課 ☎ 223-9365

《運用時間》月～金曜（祝日などを除く）8時30分～17時15分
《配置場所》消防本部

■創設のポイント

- ・救急件数が集中する日中帯に対応できる
- ・通常の24時間当直勤務に加えた増隊で救急体制を強化
- ・増隊により現場到着時間の短縮が見込まれ、より迅速で適切な救急活動につながる

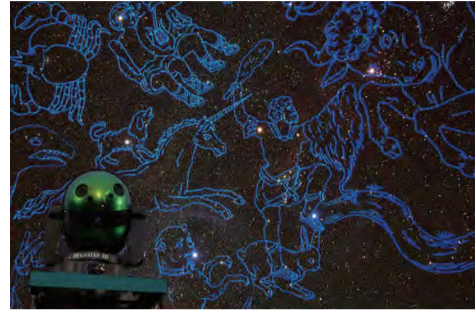
■市内の救急件数



詳細はこちら

ワクワクする体験を 子ども科学館

大人も子どもも、ワクワクできる施設です。プラネタリウム、展示ホール、実験・工作教室などで楽しく学べます。
☎子ども科学館 ☎221-4152



■プラネタリウム
季節ごとの番組が楽しめるプラネタリウムを投影します。
詳細はこちら



■展示ホール
見るだけでなく触れて楽しめる展示を準備しています。



利用者の声

普段できない体験を
金森 優香さん (34)

初めて科学館を訪れたのは、子どもたちに「アニメのキャラクターが出るプラネタリウムに行ってみよう」と誘ったのがきっかけです。子どもたちに星座や天体の話を説明するのは難しいですが、プラネタリウムなら興味を持って見てくれます。子どもも小さく、夜外に出て星を見る機会もないため、日常では体験できない経験ができるのも魅力の一つです。科学館は展示コーナーもあり遊べる場所です。子どもが成長するにつれて、遊びの中から学んでくれたらいいなと思います。



市内に38館 児童館

子ども達がいつでも遊べる場です。小学生以外にも、幼児、中学生なども使えます。
☎青少年課 ☎225-2581

《開館時間》
月～金曜＝13～17時
土・日曜、祝日、
長期休業期間＝10～17時
☎不要。

■おひさまタイム
親子での遊び場や子ども・保護者同士の交流に児童館が使えます。

《時間》10～12時
※開放する曜日は児童館で異なる。市HPに掲載。
☎不要。



児童館の指導員とも交流

詳細はこちら

子育てを応援

子育て支援センター 「もみじの手」

子育て中の方や、これから子育てを始める保護者などを支援します。
☎子育て支援センター ☎225-2922

■サロン室
子ども・保護者が気軽に交流できる場です。

《利用時間》①9時～11時50分
②13時～15時50分

《場所》アミューあつぎ
《対象》0歳～小学校就学前の子どもと保護者
☎初回利用時＝受け付けで利用登録カードを記入。2回目以降＝初回利用時に渡す名札を持ち会場へ。

■子育て応援・出張相談
保育士が児童館に向向き、個別相談に応じます。
《時間》10～12時
《内容》子育てで気になることや悩みなどの相談
☎窓口、電話、Eメールで
☎kosodate@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

■子育てリフレッシュ講座
育児や家事で忙しい保護者の方が安心してリフレッシュできる講座を託児つきで開催しています。
《対象》市内在住で未就学児がいる保護者（託児は生後3カ月以上の未就学児が対象）
※開催日時などの詳細は市HPに掲載

もみじの手
詳細はこちら



利用者の声

安全に 遊べる環境

新村 耕平さん
(34・上荻野)



月に1・2回、サロン室を利用しています。最初は子どもが人見知りをしていて周りの子と馴染めませんでしたが、回数を重ねるうちに人がいる雰囲気慣れて私以外の人のところへも行くようになりました。利用中に私がトイレに行くときでも、保育士の方が見てくれて安心できます。また、家だと子どもが持ったり、触ったりで危ないことも多く常に目を離せませんが、サロン室であれば安全に遊べるのもメリットです。



特集 子育てしやすいまちに

交流・相談・支援の場

市では、子ども・保護者同士が交流できる場や育児の相談を受け付ける窓口を設置するなど、子育て世帯をサポートしています。春は入園や入学などで、子どもも保護者もストレスを感じやすい時期です。市の施設や講座、制度を活用し、リフレッシュしながら育児をしませんか。

利用者の声

幅広い年代の子どもと 交流できる貴重な場

林田 ゆかりさん (38・松枝)

児童館は通っているうちに顔なじみの方ができ、育児の悩みや相談などができる場所です。家庭で保育をしていると自分の子どもが基準になりがちですが、月齢に近い子どもを育てる方とイヤイヤ期や嫌いな食べ物、睡眠など育児の話ができると不安が解消されます。インターネットで子育ての情報も見られますが、直接育児をしている方と会話ができると安心できます。小学生がいる児童館ならではの環境で遊べることは、子どもの成長にもつながっていると感じています。



育児・家事を支援

ほっとタイムサポーター

妊産婦がいる世帯に育児や家事などを支援する「ほっとタイムサポーター」を派遣し、身体的・精神的な負担を軽減します。
☎子育て支援センター ☎225-2922

《利用時間》9～17時のうち2時間

《内容》育児＝もく浴や授乳の補助など
家事＝食事の準備・片付けなど
《対象》市内在住で9～17時に育児や家事を支援する家族がいない方で①妊娠に伴う疾病で医師から安静が必要と診断された妊婦②出産後6カ月以内(多胎出産の場合は1年)③育児支援家庭訪問などでサポーター派遣による支援が必要と判断のいずれかに該当する方

育児を援助

ファミリー・サポート・センター

育児の援助を「受けたい方」が依頼会員、「したい方」が提供会員となり、育児を手助けします。
☎子育て支援センター ☎225-2922

《援助の内容》保育施設などの開始前・終了後の子どもの預かりや送迎、冠婚葬祭などの一時的に必要な預かりなど

※預かりは、原則として提供会員の自宅で実施
※子どもが病気の時や宿泊を伴う援助は不可

依頼会員

《対象》保護者が市内在住で生後3カ月～小学6年生の子どもがいる方
※入会時に説明を受ける必要あり

提供会員

《対象》市内在住で育児に理解と熱意があり、積極的に援助活動ができる健康な方

※入会後や援助前に研修の受講が必要



詳細はこちら

利用者の声

頼れる存在 寺戸 麻衣さん (37・七沢)



昨年10月、娘の習い事への送迎をしてもらうため、ファミリーサポートセンターを利用するようになりました。利用開始前に、使いたい日にちなどを決めて提供会員の方と職員の方を交えて事前の打ち合わせをしました。最初は子どもも慣れない環境に、緊張や戸惑いもあったようですが、今では楽しくコミュニケーションをとっています。依頼を快く引き受けてくれ、生活に欠かせない存在になっています。



提供会員が小学校へ迎えに行き習い事へ送り届ける

利用者の声 家で見てもらえる手軽さ

昨年末、市内に引っ越して来て家事や育児などで荷解きができない状態が続いていました。たまたま遊びに来た子育て支援センターでほっとタイムサポーターの制度を知り、家を整理する時間をとるために申し込みました。

ほっとタイムサポーターは、家に来て手伝ってくれるのが魅力です。3人の子どもがいるので、自宅に来てもらえるとう助かります。



石岡 愛理さん (29・寿町)

相談窓口を 集約

こども家庭センターを開設

全ての子どもが健やかに育つ社会を目指し、妊産婦や子育て世帯、子どもからの相談を専門スタッフが受け付ける支援拠点です。

こども家庭センターの業務など

- こども保健第一・第二係
☎225-2597：母子保健
☎225-2929：母子健康手帳の交付、産前産後の支援
- こども相談係 ☎225-2244
18歳未満の子どもに関する相談
- 女性相談係 ☎225-2953
女性（DV含む）に関する相談

- 子育て支援係(子育て支援センター)
☎225-2922
子育てサロンの運営、育児相談
 - 発達支援係(療育相談センター)
☎225-2252
発達に心配のある子どもの相談
- 場所は ■ 保健福祉センター
● アミューあつぎ



最大100万円を補助 住宅取得支援

市内で住宅を取得する方に、補助金を交付します。
☎住宅課 ☎225-2330

■ 親元近居・同居住宅取得等 支援事業補助金

《対象》1年以上市内に居住している親世帯と近居・同居のため市外から転入する子世帯(転入する日以前、市内に1年間住民登録のない方)で補助対象住宅に10年以上近居・同居をする予定などの条件を満たす方

■ 若年世帯住宅取得支援事業補助金

《対象》補助対象住宅の所有権保存・移転登記時点で世帯主または配偶者が39歳以下の世帯で①世帯に中学生以下の子がいる②補助対象住宅に3年以上居住予定一などの全てを満たす方



補助額や申請方法
などの詳細はこちら

利用者の声

新しい生活の助けに

補助金を知ったのは、転入手続きでチラシを見た時です。厳しい条件などがあり、該当しないかとも思いつつ、申請窓口に行きました。補助を受けられると知った時は、引っ越しや家の購入など、予定よりも多くのお金がかかっていたのでうれしく思いました。



若林 勇希さん (38・栄町)

情報を探しやすい分りやすく

子育てサイト「おおきな〜れ」

子育て情報をまとめたサイトです。楽しいイベントや遊び場のお知らせなども掲載しています。
☎こども育成課 ☎225-2262

サイトのポイント

- ▶ 妊娠中のとき、0歳、1歳～2歳など、年齢別に情報が検索可能
- ▶ 妊活や妊娠・出産、健康・相談など子育てに関する項目ごとに情報を整理



詳細はこちら

スポーツの聖地づくりの一環として

「ちびっこマラソン・駅伝競走大会」を開催



開始の合図と同時に元気よくスタートする子どもたち

小学生が健脚を競う「ちびっこマラソン・駅伝競走大会」が3月、荻野運動公園で開催され、約460人が競技場内を駆け抜けました。

競技はマラソンと駅伝の部に別かれて実施。4人でたすきをつなぐ駅伝の部には26チームが参加し、選手たちは懸命にたすきをつないでゴールを目指していました。青空の下、力走する子どもたちにもたくさんのお客が声援を送りました。

駅伝の部で優勝したSCDアスリートクラブJr.の下楠蘭潤さん(12・妻田西)は「昨年もお出場で2位だったので、優勝できてうれし。練習の成果を発揮ができた」と笑顔を見せました。

全国大会で優勝するなど活躍

ラグビー高校日本代表決定を報告

2023年度ラグビー高校日本代表のメンバーに、市内出身の中森真翔さんが選ばれ、山口市長に喜びを報告しました。

中森さんは愛甲小学校、厚木中学校の出身。小学4年生の時にラグビーを始め、高校3年生では全国高校ラグビーで優勝メンバーとして活躍しました。

中森さんは「ラグビーを始めた頃から代表の桜のジャージを着るのが夢だった。最終的には全年齢の代表に選ばれることが目標なのでこれからも努力を続け、将来的にはラグビーを楽しいと思ってくれる人が増えるようにしていきたい」と話しました。4月からは大学に進み、さらなる高みを目指します。



日本代表のジャージを着て市長を訪れた中森さん(左)



未来につながるあつきへ

市制70周年を祝うキャッチフレーズが決定

2025年2月の市制施行70周年に向けた記念キャッチフレーズが「未来へ一歩つながる あつき70年」に決定しました。

考察したのは、市内の小中学校に勤める田熊圭さん(42・相模原市)。131点の応募から市制70周年記念事業実行委員会による審査と市民投票で選ばれました。

田熊さんは「『つながる』という言葉が普段から大事にしていて、子どもたちの未来につながってほしいという思いや、今と過去、人と人をつなぐことをイメージした。私も厚木のこともっと知り、子どもたちにも地域のことを好きでいてほしいと思ってる」と話しました。

市では5月15日までに、記念のキャッチフレーズと市のイメージに合ったロゴマークを募集しています。



「キャッチフレーズは授業の一環で子どもたちと一緒に考えた」と話す田熊さん(右)

2050年カーボンニュートラル実現を目指して

EVごみ収集車の2台目導入式典を開催

脱炭素社会を目指すため3月、電気エネルギーで走行するEVごみ収集車の2台目の運用をスタートしました。

車両は、市と三菱ふそうトラック・バス株式会社、新明和工業株式会社の3者が締結した「電気ごみ収集車の普及・促進に関する協定」に基づき導入。引き渡された車両は、車体をコンパクト化したことで狭い路地での収集が可能となるなど、より実用性の高い車両へと改良されました。自治体がEVごみ収集車を2台体制で運用するのは全国的にも珍しく、3月から実際に収集を始めます。

市では今後、2030年までに全ての公用車の電動化を目指すなど、カーボンニュートラルの達成に向けた取り組みを進めています。



式典には市職員や関係企業の役員約20人が出席

第13回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル(CN)とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。連載では、今日から挑戦できる取り組みを紹介します。

今月の挑戦 新たな技術を知ろう



市役所の玄関付近でもペロブスカイト太陽電池の実証実験を実施中

皆さんはペロブスカイト太陽電池をご存じですか？素材が折り曲げられるくらい薄くて軽いので、これまで設置できなかった場所での発電が期待されています。

他にも、持続可能な航空燃料の開発やガスの脱炭素化技術など、カーボンニュートラル実現に向けた技術開発は数多く実施され、日々進歩しています。技術革新に関心を持ちながら、今できることに取り組みましょう。

CNプラットフォームでは、新たな技術を詳しく知れるページを公開しています。



環境政策課 ☎225-2749

「どんな宝物よりも子どもには遠く及ばない」。日本最古の和歌集・万葉集に収められた山上憶良の歌です。「子どもこそ尊い宝であること」を歌ったもので、市長として、3人の子どもを育てる親として、非常に共感できる言葉です。

私たちは社会の宝である子どもたち、そして子育て世帯を全力で支えていかなければなりません。4月からスタートした「小・中学校の給食費の無償化」は、市長就任時に掲げ

備を進めているところです。4月からは市役所の組織も大きく変わります。妊娠から出産・子育てまでの一貫した相談支援体制を整えるため、母子保健と児童福祉部門が一体となった「こども家庭センター」を新たに設置し、切れ目のない支援と児童虐待の防止などに取り組んでいきます。次代を担う子どもたちを地域の中で健やかに育てていくため、皆さんと共に「子育て・教育で選ばれるまち」を目指していきます。



まち全体で子育てを応援するため市内の保育所を訪問

た8つの政策の一つです。経済的負担を軽減し、子どもたちの健やかな成長を支える食環境を整えていきます。さらに、快適な教育環境を提供するとともに、災害時の避難所強化のため、小・中学校の体育館に冷暖房を順次設置します。3年間で全校に行き渡るよう、準備を進めています。

タウンガイド

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ㊚=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📺=講座予約システム(インターネットで申し込み可)
 愛TV 4/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「春の訪れ」
 #2月26日撮影
 #小鮎川沿い
 #河津桜
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



防災行政無線の情報を確実に取得 防災ラジオを有償配布



屋内でも防災行政無線を聞けるラジオを有償配布します。

☎危機管理課 ☎225-2190

《対象》市内在住の方・事業所・団体
 《費用》1台4000円 《配布》10月以降

■防災ラジオのポイント

- ①自動録音機能で最新の放送を繰り返し再生可能
- ②AM・FM利用可。緊急時は市の情報を優先
- ③市内どこでも受信が可能



詳細はこちら

☑直接、電話またはファクスに〒住所、氏名、電話番号、購入希望台数、受け取り場所(危機管理課または希望する公民館)を書き、4月30日までに危機管理課 ☎223-0173へ(市HPから申請も可)。

夕焼け市

4月10日～10月30日の水曜、17～18時。荻野運動公園。市内産の農産物や加工食品などを販売。4月10日はオープニングフェアとして買い物をした方各店舗先着80人にタオルをプレゼント。☎農業政策課 ☎225-2801。

公共施設の指定管理者が決定

■市営体育施設(東町・猿ヶ島・南毛利スポーツセンター・ツユキ及川球技場)

《管理者》スポーツ協会《指定期間》4月～(3年間)。☎スポーツ魅力創造課 ☎225-2530。

■市営自動車駐車場

《管理者》タイムズ24(株)連合体《指定期間》4月～(5年間)。☎市街地整備課 ☎225-2851。

■市営自転車等駐車場

《管理者》(株)オリエンタルコンサルタント《指定期間》4月～(5年間)。☎くらし交通安全課 ☎225-2760。

相模川流域下水道の都市計画変更に関する素案の閲覧・公聴会

《閲覧期間》4月5～26日(土・日曜を除く)《閲覧場所》都市計画課、県都市計画課、関係市町の担当部署《公聴会》①5月21日。シンコースポーツ寒川アリーナ(寒川町)②5月29日。四之宮ふれあいセンター(平塚市)。いずれも18時30分～20時30分(公述申し出があった場合に開催)《対象》市内在住、関係市町民、土地の権利者など10人程度《公述申し出》都市計画課や市HPにある申出書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで、4月5～26日(必着)に〒243-8511都市計画課 ☎225-2401・☎222-8792・✉4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

森の里東地区の都市計画変更に関する原案の縦覧・公聴会

下古沢緑地、土地区画整理事業の都市計画原案の縦覧などを実施します。

《縦覧期間》4月11～24日(土・日曜を除く)《縦覧場所》都市計画課または市HP《公述申し出》市内在住の方または土地の権利者などが対象。都市計画課や市HPにある申出書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで、4月11～24日(必着)に〒243-8511都市計画課 ☎225-2400・☎222-8792・✉4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

■公聴会の傍聴

5月16日、19時～(公述申し出があった場合に開催)。小鮎公民館。手話通訳・要約筆記あり。☎電話またはファクス、Eメールに会の名称、〒住所、氏名(ふりがな)、電話番号を書き、5月15日までに都市計画課へ。

本入れバッグの配布

市立小学校に入学した児童に、小学校を通じて本入れバッグを配布します。私立小学校の場合は、中央図書館で受け取れます。☎中央図書館 ☎223-0033。

応急手当普通救命講習会

4月24日、9～12時。消防本部。応急手当の重要性、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど。市内在住在勤在学の中学生以上30人。無料。☎4月1～9日に救急救命課 ☎223-9365へ。抽選。☎

博物館実習生を募集

あつぎ郷土博物館で博物館実習を希望する方を募集します。

《定員》博物館の基本に関する科目を修得した方5人《期間》7～9月の8日間《費用》300円(テキスト代)。☎4月1～30日にあつぎ郷土博物館 ☎225-2515へ電話し、申込書を提出。面接あり。詳細は市HPに掲載。

久保奨学金の奨学生を募集

中学校の部活動に係る費用を支援する学校教育活動応援奨学金の希望者を募集します。

《対象》①市内在住②部活動への意欲がある③経済的な理由で部活動への参加が困難の一の全てを満たす中学生30人。☎市立中学校で配布されるチラシを確認し、申請書を4月26日までに担任の先生へ。市立中学校以外の方は教育総務課 ☎225-2600へ。

健康食育推進協議会委員を募集

市民の健康増進や食育推進を協議する委員を募集します。

《対象》①市内在住在勤在学で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年2回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない一の全てを満たす方3人《任期》6月～(2年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。☎保健福祉センターや市HPにある申込書を直接または郵送、ファクス、Eメールで5月7日(必着)までに〒243-8511健康医療課 ☎225-2174・☎224-8407・✉2250@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考あり。

及川球技場の名称の変更

ネーミングライツを導入し、4月1日から「ツユキ及川球技場」になります。☎行政経営課 ☎225-2160。

4月2日は「世界自閉症啓発デー」 4月2～8日は「発達障害啓発週間」

誰もが暮らしやすい地域共生社会を願い、4月2日にアミューあつぎを啓発デーのイメージカラーのブルーにライトアップします。☎障がい福祉課 ☎225-2221。

参加者募集

子ども議会

「市に対する希望や期待」をテーマに、議場で質問してみませんか。

日時 8月19日 13時30分～17時 場所 市役所本庁舎

対象 市内在住在学の中学生で①6月8日・8月8日のオリエンテーション・リハーサルに参加できる②報道機関、インターネット中継(生中継・録画放映)や議会だよりなどへの写真掲載を承諾一の全てを満たす方28人

☑ハガキ、ファクス、Eメールに〒住所、氏名、保護者氏名、電話番号、学校名(学年)、Eメールアドレス(持っている方のみ)、質問したいジャンル(市HPに掲載)を書き、5月8日(消印有効)までに〒243-8511議会総務課 ☎223-9535・✉7600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。市HPからも申し込み可。



詳細はこちら

☎議会総務課 ☎225-2700

ホット

インターネットモニターからの意見を紹介

メール

Hot E Mail

インターネットモニター募集

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課 ☎225-2043

3月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆梅澤さんに厚木の魅力を発信してもらい盛り上げてほしい/50代男性 ◆防災ポケットブックが届いたのをきっかけに備蓄品や持ち出し物などの点検の機会としたい/50代女性 ◆一人一人のつながりと絆で災害などに対応できるようにしたい/70代以上男性 ◆タイムスケジュールを参考に家族で飯山桜まつりに行こうと思う/40代女性 ◆ツグミはよく耳にするがトラツグミは初めて知った/70代以上女性

編集後記

特集の取材で、子育て中の方から話を聞きました。使う制度や利用する施設は異なりましたが、皆さんから共通して感じたのは相談や交流ができる場所の大切さです。取材で訪れた施設は、子どものにぎやかな声と笑顔であふれ、自然と保護者同士のコミュニケーションも生まれているように感じました。一人でも多くの方が市の施設を訪れ、行って良かったと感じてもらえるとうれしいです/黒澤

広報写真コンクール

審査結果

「新しい厚木 輝く一枚」をテーマに作品を募集し、審査の結果、入選作品が決まりました(敬称略)。

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2040



市長賞「あじさい階段」原田 良徳



市長賞 アカウント名 maapii33



神奈川新聞社賞「お家に帰ろう」志村 利夫

一般部門

応募数:103点

※一般部門の入選作品は、4月1日から本厚木駅東口地下道に展示。

入選

《一般部門》

- 池田 利光
- 内野 秀明
- 大坪 政文
- 西山 昌敏
- 町野 正樹
- 村田 義一
- 村山 修

《Instagram部門》

- yuya.urino
- ukiuki_walker
- atsugilandscape
- rex_tanikei
- aloha1181015
- houkagojidou_halo
- a_nooto



詳細はこちら



厚木にこんなところあったの賞

アカウント名 yuuy_329

応募数:441点

Instagram部門

30周年 自然歳時記

カワガラス

カワガラス科

カワガラスは、全長22センチほど。全身が濃い茶色をした鳥。留鳥として山地の渓流に生息し厳寒期から繁殖活動をする。絶滅危惧Ⅱ類に指定され数は少ない/不動尻の清流で見つけた。 写真・文/吉田文雄



川沿いを歩いていると「ビィ、ビィ」と鳴きながら流れに沿って一直線に飛ぶ元気な鳥がいた。

カワガラスは、他の鳥と違い水生昆虫のカワゲラやカゲロウなどの幼虫を主食にしているため、寒い時期から繁殖期に入る。春先には、飛び立ったひなに餌を与える

姿を見かけることがあり、親の愛情の深さを感じる。滝の裏側やくぼみにコケなどを使った温かい大きな巣を作るのも、他の鳥にはまねのできない知恵だ。

いつまでも水生昆虫のすむ清流と、ひなの育つ生息環境が保全されることを願っている。

厚木市の人口 (3月1日現在)

世帯数

10万5114世帯(前月比19世帯減)

人口

22万3813人(前月比117人減) 男11万5276人・女10万8537人